

TRIBAY CAPITAL グループ、Green Transition Partners と提携し、200MW 規模の中小再エネ資産に投資する枠組みで合意

2021年9月28日

TRIBAY CAPITAL 株式会社/株式会社トライベイ

200MW 規模の中小再エネ資産に投資する枠組みで合意

TRIBAY CAPITAL グループ（以下、TRIBAY）は、Green Transition Partners（以下、GTP）と提携し、太陽光を軸に中小規模の再生可能エネルギー資産に積極投資する枠組みで合意いたしました。今後数年間で、エクイティー規模で88億円（80百万米ドル）、金融機関からの借り入れとあわせて計350億円規模のポートフォリオ構築を目指しております。

再エネ資産に対する投資環境は大きく変化しています。一方では、気候変動問題及びESG投資への世界的な関心の高まり、日本でも2050年のネット=ゼロ宣言やエネルギー基本計画における再エネ普及目標のかさ上げが決定しており、機関投資家の再エネ資産への投資意欲は極めて旺盛です。他方で、近年の集中豪雨等を受け、山林を利用したメガソーラー案件の開発の難易度は上がっており、FIT 価格の低下を受け投資可能な案件が不足している現実があります。

そんな中、TRIBAY は、地域の環境と調和した地産地消型のプロジェクト開発への取り組みを強化してまいりました。中小規模の太陽光案件には、個人をはじめ幅広い投資家が参加してきており、規模感では再エネ市場の中でも大きな位置を占めています。ただし、機関投資家にとっては品質や管理の観点から扱いにくい領域であり、市場の中に大きなギャップが存在してきました。

TRIBAY は、再エネ市場における、開発から管理までを一貫して取り組んできた経験を活かし、中小型資産にもポートフォリオとして投資可能なノウハウを蓄積してきました。これは、再エネ資産が持続可能な形で増やすためには、機関投資家による取り組みを可能とする仕組みづくりが重要との信念に基づいています。今般、資本市場におけるネットワークやグローバルなインフラ投資において経験豊富なGTPとの提携により、中小再エネ資産への投資をより一層強化してまいります。

Green Transition Partners（GTP）について

GTP は、元ゴールドマンサックスやマッコーリのインフラ投資チームメンバーで構成され、これまでにインフラ関連を軸に累計で1兆4300億円（133億米ドル）に投資を行ってきた投資グループです。再生可能エネルギー分野では、日本のみならずアジア各国において、発電・蓄電・水素などの領域に累計で2.7GW以上の投資実績を有しております。